

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について (令和3年4月1日現在)

1. 教育学部	2
2. 大学院人文社会科学研究部(文学系)	3
3. 大学院人文社会科学研究部(法学系)	4
4. 大学院先端科学研究部	5
5. 大学院生命科学研究部(医学系)	6
6. 大学院生命科学研究部(薬学系)	8
7. 大学院生命科学研究部(保健学系)	9
8. 病院	10
9. 発生医学研究所・ヒトレトロウイルス学共同研究センター・ 生命資源研究・支援センター	12
10. 産業ナノマテリアル研究所	15
11. くまもと水循環・減災研究教育センター	16
12. 先進マグネシウム国際研究センター	18
13. 総合情報統括センター	19
14. 熊本創生推進機構	20

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名( 教育学部 )

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
教育学部の専門科目である「家庭経営学」・「家族関係学」・「教育社会学特殊講義」では、男女共同参画やジェンダーに関連した内容を、「人権教育論」では LGBTIQ やダイバーシティといった内容をそれぞれとり扱っている。
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
教員の研究では、「熊本県における『よかボス』登録の効果と課題」という題目で、男女共同参画をテーマにした研究が行われ、その研究成果は熊本大学教育学部紀要第 69 号に掲載された。
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
教養教育科目である「女性のライフコースとキャリア」では、教育学部教員がコーディネートを務め、熊本県内で活躍している女性（ホテル経営者、看護部長、新聞記者、医師、弁護士等）を講師として招き、地域における男女共同参画の優れた実践例を学生に紹介している。
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
令和 2 年度の育児休業取得者は 3 名（附属幼稚園教諭 1 名，附属特別支援学校教諭 2 名）である。
<b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(人文社会科学部(文学系))

<b>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
文学部では授業「ジェンダー入門」を以前より継続して開講している。この授業の主な目標は男女共同参画の必要性を学生に周知することである。これに加え、各教員の自発的な取り組みとして、担当授業にジェンダー論的視点を取り入れた授業も行われている。「コミュニケーション情報学入門」「社会学概論」「芸術学概論 II」「日本文学概論 I」「世界システム史講読」「比較文学基礎演習」などの授業がそうである。こうした授業に触発される学生も少なくなく、例年、複数の学生がジェンダーにかかわるテーマで卒業論文を執筆しているが、そうした学生への研究指導も充実している。
<b>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
それぞれの部署で引き続き努力している。
<b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
授業「ジェンダー入門」を継続して開講し、男女共同参画に積極的な人材の育成に努めている。
<b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
人文社会科学部(文学系)は、令和3年4月1日付けで2名の女性教員を採用した。人文社会科学部(文学系)に所属する女性教員の数は確実に増加している。
<b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
特になし。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(人文社会科学部(法学系))

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
職業選択に関するキャリア科目開講を維持しています。学生が種々の目的で使用できる「リフレッシュルーム」「法学部学生自習室」「自主ゼミ室」を設け学生の学びを支援している他、昨今の事情に絡み、パソコン・印刷などを学生が使える部屋を確保しました。
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
教員公募に出産・育児・介護に専念した期間の付記、男女共同参画を推進していることの記載を維持しています。
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
特に具体的取り組みはございません。
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
特に具体的取り組みはございません。
<b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
特に具体的取り組みはございません。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(大学院先端科学研究部)

<b>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
<p>女子中高校生の理系進路選択支援活動として、熊本大学大学教育統括管理運営機構による「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」がある。大学院先端科学研究部の教職員が企画運営に関係するとともに、研究部男女共同参画推進委員会からの依頼に応じて理学部、工学部及び自然科学教育部の女子大学生・大学院生が各種企画に協力している。本年度はバーチャル開催となったオープンキャンパスに合わせ、女子高校生の興味に応じて現役女子学生と個別に相談する機会として「女子高校生のための進路相談会」を開いた。これまでの参加者から、これらの事業は高い評価を得ており、理系学部に進学する女子高校生及び大学院に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員・研究者増加につながる優れた取組と考えている。</p> <p>また、研究部男女共同参画推進委員会主催で、女性教員と大学院生、学部学生との懇談会である「Women in Science」を継続して開催していたが、本年度はコロナの影響で中止した。</p>
<b>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
<p>全女性教員を対象に、スキルアップ経費として、論文投稿・校閲費や会議参加費などの支援を行っている。本年度は、3名への支援を行った。</p>
<b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
<p>女性教員も含め、女子高生のための進路相談会を行うことで、地域へ貢献している。</p>
<b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
<p>大学院先端科学研究部では、平成22～26年度に「バッファリングによる女性研究者養成の加速」プログラムにおいて女性限定の公募を実施し、10名の女性教員を新規に採用した。新規に雇用した女性教員のうち6名が、着任後に出産し、現在も5名が育児をしながら教育研究活動を継続している。</p>
<b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
<p>教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念(あるいは従事)した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページを御覧ください。<a href="http://gender.kumamoto-u.ac.jp/">http://gender.kumamoto-u.ac.jp/</a>) 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している。</p>

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(生命科学研究部(医学系))

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
(記入欄) ・医学科での特別臨床実習においてグループ分けを行う際、特別な偏りがないよう配慮している。 ・全学年、男女とも個人毎にロッカーを割り当てており、女子更衣室についても確保している。 ・育児中の学生に対し、要望があれば実習時に配慮し柔軟に対応している。 ・勉学と子育ての両立の心構えやアドバイスを女性先輩医師から直接聞くことが出来る環境を整えている。
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
(記入欄) ・医学教育部において、柴三郎プログラムに女性柴三郎コースを設定し、保育園への優先的入園、病児保育などの子育て支援や、出産・育児休学中もeラーニングで勉学の継続、メンターによる研究指導などを行う支援制度を設けている。 ・女性教員、学生によるランチ会を行ってきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のために対面で会合することが困難であったが、医学科学生対象にMoodleコースを用いてのランチ会を3回企画開催した。
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
(記入欄) 特になし
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
(記入欄) 特になし
<b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>

(記入欄)

- ・ 教員公募を行う際には、必ず、「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページをご覧ください。<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/>)  
また、選考にあたっては、「男女共同参画社会基本法」の精神に則り、適性に行います。」を記載している。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(生命科学研究部(薬学系))

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
薬学部の男女比は、例年約1:1で、男女とも就職率は100%であるため、現状においてもキャリア形成の意識は十分高いと考えられる。創薬・生命薬科学科(4年制)の学生は男女とも100%が大学院博士前期課程に進学しているため、教育の機会均等は既に達成されているといえる。一方、今年度に博士学位を取得(見込みを含む)する学生16名のうち女性は7名であるため、博士号取得者数にも男女による差は認められないといえる。
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
薬学部では3年生の5月に研究室配属を行っている。研究室ごとに男女の定員は設けていないので、既に男女平等な教育・研究環境であるといえる。
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
最近、「かかりつけ薬剤師」として地域に根ざした薬剤師を志す学生も多い。この傾向は今後も増加すると思われる。
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
積極的に女性研究者の講演会を開催する機会を設けている。今年度も1回行った(資料添付)。教員公募の際には、女性を積極的に雇用する旨を公募要領に記載している。セクシャル・ハラスメント相談員のリストを掲示板に示し、各種ハラスメントに関する相談に対応しやすいようにしている。
<b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
特になし。



## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(生命科学研究部(保健学系))

<b>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
(記入欄)
<b>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
(記入欄)
<b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
(記入欄)
<b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
(記入欄)
<b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
(記入欄) <p>公益財団法人日本女性学習財団理事長村松泰子氏の動画「学校をもっと男女共同参画に～男女平等に教えるには～」(動画の利用許諾取得済み・原則2月末日まで)及び内閣府男女共同参画局の令和2年版男女共同参画白書(概要)をLMS上に掲載し、38名が視聴及び概要を確認した。</p> <p>動画についてのアンケートを実施し、別添のとおりデータが残っている12名の意見が出された。生物学的な差による男女差別が実施されていることを理解されていない回答があり、男女に差があるのは男女の平均の差であって、個体として差がある訳ではないのにこのような意見が出されたことについて、何らかの対応が必要だと考えている。</p> <p>そのため翌年度については、何故男女共同参画が提唱されているのか、2030年までに持続可能な社会を目指すSDGsにジェンダーに関することがあるのか、を示すことが対策として考えている。</p> <p>LMSのアドレスは次のとおり。 <a href="https://md.kumamoto-u.ac.jp/course/view.php?id=67268">https://md.kumamoto-u.ac.jp/course/view.php?id=67268</a></p>

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名( 病 院 )

<p><b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部医学科1年次開講科目「医学概論」において「医師の男女共同参画とワークライフバランス、キャリア形成」という内容で、及び医学部医学科4年次開講科目「医療と社会」において「男女共同参画」という内容で、病院所属の教員が講義を行い、医学部学生に対する男女共同参画に係る教育内容を充実させた。</li> </ul>
<p><b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実績なし</li> </ul>
<p><b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックキャリアを積む上で、留学した女性のロールモデルが少ないことが課題であると認識し、育児とアカデミックキャリアを積むことが両立できることを知ってもらうことを目的に、育児中の20代、30代、40代で海外留学を経験したロールモデルインタビュー冊子「留学のすゝめ」を作製し、医学部学生や留学希望者に配布した。</li> </ul>
<p><b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスの観点に立つ環境の整備</p> <p>院内保育所の拡充計画については、令和2年度においては、市中の認可保育所等の入園状況が改善していること等、また、園児数が定員を満たしていない状況であることから、当面保留とした。</p> <p>○ジェンダーの視点による学内の調査・分析、統計及び情報の提供</p> <p>病院男女共同参画推進委員会による</p> <p>① 男女共同参画コーディネーターの会の開催(令和2年11月20日、11月26日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEBにより実施</li> <li>・各診療科等に設置した男女共同参画コーディネーターが参加</li> <li>・「熊本県における医師の男女共同参画に係る問題」について、地域医療支援に</li> </ul>

詳しい病院男女共同参画推進委員会委員から報告

- ・ 「本院及び熊本県で利用できる支援」について、本院の取り組みを紹介
  - ・ 「復職プログラム・復職支援について」をテーマに参加者間で意見交換を実施
- ② 育児介護支援情報会の開催(令和2年12月4日)
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮してWEBにより実施
  - ・ 今回は介護をテーマとして熊本県内から介護と労働との問題に詳しい講師を招聘し「介護で仕事を辞めないために～両立のコツ～」という表題により講演会を実施
  - ・ 介護における男女共同参画の必要性、日常生活における男女の自立、休暇・休業等の介護支援制度の積極的利用の必要性等を講演

**その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。**

(記入欄)

○病院の女性職員(有期雇用職員等を含む。)比率等(令和3年2月1日現在)

職員数 約2,200人(うち女性 約1,500人 女性比率 約67.0%)

(教員・医師 約660人(うち女性 約210人 女性比率 約31.7%))

(メディカル(看護師等) 約1,260人(うち女性 約1,070人 女性比率 約85%))

○病院男女共同参画推進委員会と熊本県地域医療支援機構の共同による

クローバーセミナーの開催(令和3年2月16日)

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWEBにより実施
- ・ 熊本県における「お留守番医師制度」について事例紹介
- ・ 他の都道府県の基幹病院における育児後の現場復帰支援について、学外の専門家から紹介
- ・ 育児に取り組む男性医療人の取り組みについて紹介と意見交換 ほか

○教員の公募において

本院の教員公募において、本学は男女共同参画を推進しており、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法に則り適正に行うことを記載している。

○他大学での男性医療人の育児参加や働き方等についての検討を参考に

本院においても、かねてより、育児中のスタッフを抱える部署の職員のケア等について情報共有や意見交換等を行うための男性医療人の会を作る構想があったため、令和2年度末に男女共同参画委員会委員が院内でアンケートを実施し、その結果を受け「熊本ペンギンズ」と名付けた会を発足し活動を開始することとした。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名( 発生医学研究所 )

<b>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
(記入欄) <ul style="list-style-type: none"><li>発生医学研究所では、独自の研究支援事業を行っており、『育児・介護期間中の研究支援』事業においては対象者を大学院生にまで拡大し、育児・介護と就学を両立できる環境の整備に取り組んでいる。令和2年度公募においては、大学院生1名に研究助成を行った。</li></ul>
<b>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
(記入欄) <ul style="list-style-type: none"><li>発生医学研究所では、2008年7月29日に男女共同参画推進に係る事業実施に関する申し合わせを定めて、工夫及び改善を重ねながら、「男女共同参画推進事業」を継続して行っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公立学校等の一斉休校もあり、育児等の負担が増えた所員も多くいたことから、支援事業の対象者を従来の“出産後4年未満”から“小学生以下の子の育児期間中”まで拡大した「育児期間中の研究支援」を新設した。公募を実施し、教職員3名に対して「育児期間中の研究支援」及び「育児・介護期間中の研究支援」に関する助成を行った。</li><li>発生医学研究所HPにおいて、上記の「男女共同参画推進事業」の公募・採択情報のほか、女性教職員の割合(統計データ)及び授乳室等設備の最新情報を掲載している(<a href="http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/danjo/">http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/danjo/</a>)。</li></ul>
<b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
(記入欄) <ul style="list-style-type: none"><li>発生医学研究所では、毎年八代中学からの研究所見学を受け入れているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出前講義の形式をとり、2020年11月13日(金)に県立八代中学校にて実施した。当日は本研究所教員(男性教員2名)による講義を行った。</li><li>今年度は新たに福岡県立修猷館高校からの研修ツアーを受け入れ、2020年10月2日(金)に感染拡大防止に配慮した上で、所長による講演、所内見学や若手教員(男性教員1名、女性教員1名)による研究紹介を実施した。</li></ul>
<b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
(記入欄) <ul style="list-style-type: none"><li>発生医学研究所では、令和2年度、所員の方々の心身の健康向上を目指して『発生研なんでも相談窓口』を設置した。所員であれば職種、勤務形態を問わず、大学院生や学部生すべてを対象とし、そのご家族も同様に相談できる。また、外部機関に委託しているため、有資格者に相談することが可能であり、秘密厳守で匿名も可能とした。相談内容は研究・仕事関係、人間関係、家族のことなど、何でも相談できるため、令和2年度も多くの利用があり、次年度も継続する予定である。(詳細は「紹介ポスター」に掲載)</li></ul>
<b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
(記入欄) <ul style="list-style-type: none"><li>令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公立学校等の一斉休校があったため、所内に新たに『キッズスペース』を設置した。備品も揃えて、子どもたちが安心して楽しく過ごせる環境づくりを心がけた。(備品の詳細は「備品リスト」に掲載)</li></ul>

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組みについて

部局名( 生命資源研究・支援センター )

<p><b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男女隔たりなく学ぶことのできる就学環境を整備している。</li> <li>・ 卒業生が研究室を訪問し、学部や大学院を卒業した後のキャリアパスについて紹介する機会を設けている。</li> <li>・ 放射線安全管理に役立てることができる放射線に対する正しい理解を目的としたグループワークや勉強会を行っている。</li> </ul>
<p><b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居室や実験スペースを適切に確保し、個々の関心に応じて研究を実施できるように、研究計画の立案と助言を行っている。</li> <li>・ 男性および女性研究者との交流、研究所への訪問、学会への参加を促している。</li> <li>・ 専門分野の国内外の学会、研究会及び研修会への参加の促進を図っている。</li> <li>・ 研究の効率的な推進や研究環境を整備するために、事務補佐員や技術補佐員として積極的に女性の採用を行っている。</li> <li>・ 育児と研究が両立できる研究環境整備に取り組んでいる。</li> </ul>
<p><b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代リーダー育成プログラムである HIGO プログラムへの参加を積極的に進めている(令和2年度:2名)。</li> <li>・ マウスリソースに関する国内および国際社会における役割を説明し、本事業の推進に貢献する研究活動への参加を促している。</li> <li>・ 放射線に関する基礎知識の啓発や原子力事故対応の被ばく医療研修などへの講師派遣を促進している。</li> </ul>
<p><b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生殖工学、実験動物学、生命資源、遺伝子組換え生物などの取り扱いに関する専門知識の習得を促している。また、放射線安全管理に関する国家資格などの取得ができるように職場での教育支援を促進している。</li> <li>・ コロナ禍において、休みやすい環境あるいはリモートワークできる環境作りを行った。</li> </ul> <p>コロナ禍の対応は、状況に併せて分野ごとに対応した。疾患エピゲノム制御分野では、学校が休校になった際、個々の子育て環境に合わせて、実際の時間的な研究計画を調整するとともに研究室に一時的なキッズスペースを確保し、研究に支障が出</p>

ないよう対策をした。

**その他：目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。**

- ・ 教員公募の際に、男女共同参画を推進していることを示すため、「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。」を記載している。
- ・ 妊婦の方などが臥床できる休憩室（動物資源開発研究施設新館 600 室）を設置する他、ソファ（遺伝子実験施設 6F 608 室）・リフレッシュルームの休憩用ベンチ（共用棟 1F）を休憩スペースとしている。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組みについて

部局名( 産業ナノマテリアル研究所 )

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
研究所主催の国際シンポジウムにおいて、世界的に著名な女性研究者や優秀な業績を有する本学女性教員をお招きし世界トップレベルの研究内容をご講演いただくなど、研究・教育環境においてジェンダーレスであることを積極的に啓発している。
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
当研究所が実施している研究プロジェクトにおいて継続して女性3名(特別研究員1名、事務補佐員2名)を採用するなど、積極的に女性の採用を行っている。
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
国際的に活躍できる研究者を育成するために、男女問わずに研究者や学生の海外渡航を支援し、国際会議参加や国際共同研究実施のための派遣を推進している。またこの活動は、国際社会では男女が分け隔て無く活躍し、社会貢献していることを見聞してもらえる効果をもたらしている。
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
熊本大学が実施している「育児・介護に関わる研究支援」事業や「病児保育支援事業」への申請を積極的にサポートし、子育て・介護世帯研究者の研究継続に配慮している。
<b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
特になし。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(くまもと水循環・減災研究教育センター)

<b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・くまもと水循環・減災研究教育センターの外部施設である合津マリンステーションや益城ラボでは、そこを利用する学内外の利用者に対して、浴室、トイレ、寝室等施設面において男女による差別がないよう配慮され、また長靴、防護服などを含めた設備品においても男女による差別がないように配慮され、利用目的が適正かつ安全に遂行されている。</li><li>・学生実習や市民講座・観察会は、野外や十分な設備のない場所で行われることが多いが、行事を行う際には、事前に更衣室やトイレに配慮するなど、男女共同参画に向けた活動が適切に行われている。</li><li>・所属教員の指導する女性大学院生は7名で、研究室では、男女による差別がないように配慮されている。</li></ul>
<b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・教員公募にあたっては、募集要項に男女共同参画を推進していることを明記し、研究活動への機会均等に配慮している。研究補助員・事務員の募集についても、可能な限り、女性を優先するように配慮している。</li></ul>
<b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・市民講座等を通して、男女がともに活躍できる地域社会の実現を目指している。</li><li>・2019年9月18～21日に本センターが開催した国際会議には、国内外から多くの女性研究者・女子学生が参加した。</li></ul>
<b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・センターでは、研究補助員、事務員として、多くの女性(計10人)が雇用されているが、採用においては育児・介護等が不利にならないように配慮し、また、雇用後の勤務についても育児・介護が可能な勤務態勢を取っている。</li></ul>



**その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。**

・合津マリンステーションでは、理系進学を推進するためのプロジェクトの一環として、大津高校・熊本西高校の臨海実習の他、県下生物部・科学部の研修、女子中高生の理系進路選択支援プログラムにイベントなどが頻繁に行われており、多くの女子生徒が参加している。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(先進マグネシウム国際研究センター)

<b>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b>
研究組織のため、該当なし。
<b>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b>
現在、女性の特別研究員1名を継続雇用しており、積極的に女性の採用を行っている。
<b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b>
男女共同参画推進に関する啓発活動については、学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に出席するよう努力している。今年度は、男女共同参画推進に関する学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に参加して高い意識を常にもつよう努力し、全学的な男女共同参画推進フォーラムへは、セミナーへの参加をメールや口頭で促している。
<b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b>
子育て中の方に対しては、男女問わず、時間外勤務を制限するなどの配慮を行っている。また、全学で託児ルームの開設(予定)など、女性の活躍を推進する環境整備がなされている。
<b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b>
教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念(あるいは従事)した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページを御覧ください。 <a href="http://gender.kumamoto-u.ac.jp/">http://gender.kumamoto-u.ac.jp/</a> ) 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している。

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名( 総合情報統括センター )

<p><b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>当部局は教育担当部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標1の活動を側面から支援している。</p>
<p><b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>研究を担う教員は、当部局では男性のみであり、上記に係る取り組みは実施していない。</p>
<p><b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>当部局は、本学の人材育成を担う部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標3の活動を側面から支援している。</p>
<p><b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>該当なし。</p>
<p><b>その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>当部局では、男女共同参画推進委員会が主催する各種講演会やセミナー等について、具体的な数値目標を定めて、積極的に参加する取り組みを実施している。また、働き方改革、男女共同参画推進に加え、COVID-19 感染拡大防止の視点から、「テレワーク」の実施について、技術的側面より支援している。</p>

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名( 熊本創生推進機構 )

<p><b>目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>所属の学生がいないため、該当なし。</p>
<p><b>目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>研究者が育児をしながら研究等に専念できるよう、男女共同参画推進室と本機構が協力してルポゼ2階に託児ルームの設置に取り組み、令和元年度からの運用が可能となった。</p>
<p><b>目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>例年、男女共同参画推進に関するフォーラムや講座を開催（昨年度までは、妊娠、不妊、赤ちゃんポスト、特別養子縁組等のテーマで開催）しているが、今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、未実施。</p>
<p><b>目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b></p>
<p>(記入欄)</p> <p>育児中の研究コーディネーター（URA）の勤務にあたって、育児時間及び育児短時間を取得するよう勧め、また、業務負荷がかからないようワークシェアリングを行い、長時間労働にならないよう配慮した。令和2年度は3名の職員が育児時間を取得（令和2年度から新たに1名取得者増）。</p> <p>なお、有期雇用職員については、規則上、育児時間を子供が3歳に達する日までしか取得できなかったため、職員からの要望を踏まえ、もう少し子供が大きくなるまで取得可能となるよう規則改正に関して学長宛に要望を行った結果、令和2年度から常勤職員同様、中学校就学の始期に達するまで取得可能となった。</p> <p>また、令和元年度には、熊本県が推進している「よかボス」の取組について、男女共同参画推進室と本機構が協力して学長に宣言いただくよう提案し、職場環境改善につなげた。</p>

**その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。**

(記入欄)

- ・本機構安部准教授が市民団体「男女共同参画と災害・復興ネットワーク」のアドバイザー（ボランティア）に就任し、活動中。
- ・本機構梅澤彩准教授が本学（全学）の男女共同参画コーディネーターとして活動中。